

「みどりとふれあうフェスティバル」に出展しました

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター

『“森の恵み”と“木の温もり”を五感で触れて、癒やされよう!』をテーマに、「みどりとふれあうフェスティバル（主催：農林水産省・林野庁、東京都、（公社）国土緑化推進機構等）」が令和元年以来3年ぶりに、令和4年5月15日（日）東京都江東区の木場公園で開催されました。

例年『森と花の祭典「みどりの感謝祭」』との併催行事として開催されているこのイベントですが、今年は前日までの荒天の影響で開催初日14日（土）が中止となり、急遽15日（日）一日だけの開催に変更されました。



【間伐材利用うちわ・コースターづくり】



【透明の衝立で密を避けて描く】

森林整備センターは森林保険センターと協力し、都市住民の皆様には森林の持つ公益的機能等に対する理解を深めていただく機会として、「水源林造成事業のパネル展示」と「間伐材を利用したうちわ・コースターづくり」の展示ブースを設けました。

また、当機構3部門（森林総合研究所、森林整備センター、森林保険センター）全てのブースでスタンプを集めた方に、記念品をプレゼントするスタンプラリーも併せて実施しました。



【パネル展示で事業をPR】



【総研・整備・保険センターのスタンプラリー】

当日の天候は、降雨はないものの曇りであり、気温も5月にしては冷涼だったこと、開催会場が令和元年までの日比谷公園から木場公園に変更になったこと等から事前に来場者数が見通せない状況でしたが、当日は900人余りの家族連れで賑わい、開場直後から終了時間近くまで小さな子供を中心に幅広い世代の人々がセンターの展示ブースを訪れていました。

今回の出展では、消毒液や衝立などを準備し、参加者においては事前検温を必須とし、接客担当者はマスクに加えフェイスシールドを装着、色塗り用のペン等も使用の都度消毒する、といった念入りな新型コロナウイルス感染防止対策を講じました。

新型コロナウイルスの感染がどのように推移するのかはまだ予想が難しい状況ですが、今後もこのような木や森林に親しむ活動に積極的に参加し、首都圏に住む皆様にも水源林の重要性についてご理解いただけるよう努めてまいります。

